

<施設設計コンセプト>

「市役所本庁舎と市民会館」合築のメリットを活かした施設づくり

- ・合築のメリットを最大限活かし相互利用の計れる計画とします。
- ・隣接する歴史文化伝承館との連携・有効活用を図ります。
- ・コスト制約のなかで、庁舎面積は出来る限りコンパクト化を図り、ホールについては可能な限り機能を満足する計画とします。

「秩父らしさのある」環境に配慮した施設づくり

- ・秩父の「伝統」と「先進性」を兼ね備えた、「秩父らしさ」を感じられる施設とします。
- ・秩父の原風景を取り込む施設づくりをおこないます。
- ・再生可能エネルギーを積極的に利用し、秩父ならではの環境配慮施設づくりを目指します。

「災害に強い」 耐久性が高く防災拠点に適した施設づくり

- ・将来起こり得る災害に備え、十分な耐震性能のある施設とします。
- ・災害発生時に防災拠点及び避難場所として十分機能する施設とします。

「将来にわたり利用可能」維持管理・フレキシビリティに配慮した施設づくり

- ・建物の長寿命化を図るとともに、部材、機器の選定については更新のしやすさに配慮した計画とします。
- ・構造体は堅固につくり、執務室のレイアウト変更等、将来変化に柔軟に対応可能な更新性の高い計画(スケルトン・インフィル)とします。

<計画概要>

- ・計画所在地 : 埼玉県秩父市熊木町 521 番 1 外 地内
- ・計画敷地面積 : 約 17,480 m<sup>2</sup>
- ・構造規模 : 地上 4 階地下 1 階建て 鉄骨鉄筋コンクリート造
- ・延床面積 : 約 9,628 m<sup>2</sup> (本体部分)
- ・建築面積 : 約 3,868 m<sup>2</sup> (本体部分)

<外観計画>

●秩父の木材を使った外観計画

・低層 1 階・2 階は、秩父産木材による美しい木の内装と活動を映し出すガラスのファサードで構成します。3 階・4 階部分は秩父の歴史的な建物のシルエットにも繋がる水平の庇と、日射に配慮する縦ルーバーなどにより秩父ならではの環境配慮のファサードを計画しています。

●高さ・圧迫感の低減

●上層階をセットバックさせた建物形状

敷地周辺からの建物の圧迫感の軽減や、団子坂を上る笠鉾、屋台を迎える花火など歴史的な風景を活かし見通せるように配慮し、建物の上層階(3、4階)がセットバックした建物形状とします。

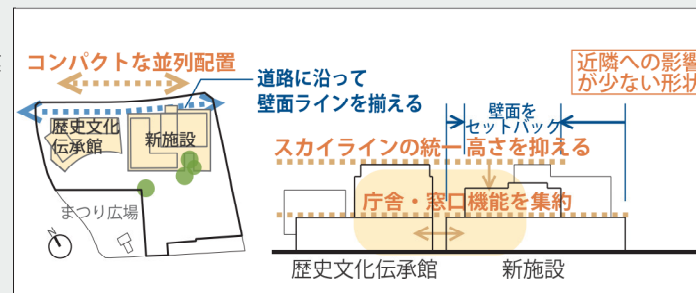
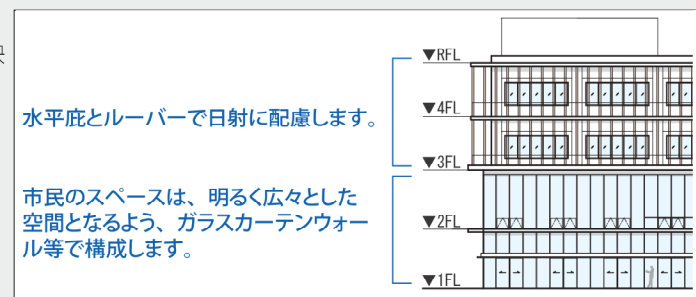
●建物高さを抑え、伝承館と統一感のある計画

建物の圧迫感を低減させるために建物高さを抑えます。また、建物の高層部分を後退させることで、歴史文化伝承館と統一感のある建築計画とします。

●周辺環境との調和

●歴史文化伝承館と一体的なボリューム

歴史文化伝承館と街並みの連続性を意識した配置とし、建物ボリュームを揃えます。



<配置・外構計画>

●配置計画

●スムーズなアプローチ

南側駐車場、歴史文化伝承館、国道に面して本庁舎、市民会館のエントランスを計画し、人の流れをスムーズに導きます。また歴史文化伝承館と隣接して庁舎の窓口部門や会議室などを配置し、各施設の連携利用をしやすくします。

●秩父公園を活かすオープンスペースの配置

敷地南側は「多機能広場」(駐車場)として、オープンスペースを確保することで、イベント時に秩父公園と一体利用ができるように計画します。秩父公園との連動利用時に駐車場エリアが柔軟に可変できるレイアウトとします。夜祭での仮設客席や災害時の避難場所としての利用を考慮し、車止め等のないフラットな計画とします。敷地全体で、合計約 210 台分の平面駐車場を確保します。

●夜祭りの花火への眺望に配慮

コンパクトな施設構成により、南にも引きを取ることで羊山や花火への視界を確保します。

●植栽計画

●3本のシンボル樹木を全て残す

土地の歴史を見守ってきたケヤキ 3 本のシンボル樹木を全て残し、それらを積極的に活かす配置計画とします。それ以外の既存樹木もできる限り活用し、四季の変化を感じることができる植栽計画とします。

